

シルク博物館令和 5 年度年報

シルク博物館

令和 6 年 6 月

シルク博物館令和5年度年報

目次

1	ごあいさつ	1
2	建物の概要	2
3	令和5年度のおもな出来事	2
4	事業	3
(1)	展示事業	3
	ア 常設展示	
	イ 春の企画展 シルク博物館所蔵品展「絹を彩る鳥たち」	
	ウ 秋の特別展 「第27回全国染織作品展」	
(2)	教育普及事業『チャレンジ！かいこプログラム』	5
	ア 第1弾 蚕種配布	
	イ 第2弾 かいこ教室	
	ウ 第3弾 団体利用・ワークショップ	
	エ 第4弾 たのしいかいこの発表会	
(3)	実演・講習会	9
	ア くみひも作り体験	
	イ 手作り真綿の実演と講習会	
	ウ スカーフ染め体験	
(4)	講座・講演会	10
	ア 連続講座「生糸の貿易港・横浜 ～関東大震災からの百年～」	
	イ 常設展示ギャラリートーク	
(5)	夏の個人向け蚕種配布	11
(6)	博物館実習生の受入れ	11
(7)	連携事業	11
	ア 全国蚕糸関係博物館横断キャンペーン「カイコを育てよう！2023」	
	イ シルキークリスマス	
	ウ 横浜輸出スカーフ展示「横浜スカーフ物語。その歴史を継いだ立役者たち」	
(8)	資料活用事業	13
	ア 購入	
	イ 寄贈	

ウ 貸出	
エ 特別利用	
オ 収蔵品の修復	
(9) 刊行物	14
(10) 研修・視察	14
(11) レファレンス	15
(12) 後援・協力	15
ア 後援等	
イ 他機関への協力	
(13) 職員の派遣	17
(14) 広 報	17
ア 春の企画展	
イ 秋の特別展	
ウ チャレンジ！かいこプログラム	
エ 講座	
オ ワークショップ、実演	
カ 常設展、基本情報	
キ その他	
(15) その他	20
ア オリジナル商品の開発	
5 資料	21
(1) 組織と職員	21
(2) 事業費	21
(3) 所蔵資料	21
(4) 入館者状況	22
(5) 過去の特別展・企画展一覧	23

1 ごあいさつ

シルク博物館は昭和 34（1959）年 3 月 12 日、横浜開港 100 年記念事業として建設されたシルクセンタービル内に開設され、今年で 65 周年を迎えました。開館以来、当館は絹に関する知識の普及と伝承、絹製品の需要促進、国際貿易及び観光の振興等に寄与するとともに、魅力ある博物館として特別展・企画展等の充実や、蚕やシルクの理解促進のための教育普及事業等に取り組んでまいりました。

令和 5 年度は、5 月 8 日から新型コロナウイルス感染症が「5 類感染症」に位置づけられたことから、感染症対策として実施していた制限を緩和して博物館事業を展開することができました。春・秋の展覧会をはじめ、絹や蚕に関するワークショップ、学校教育と連携した教育普及活動を実施するなど、計画していた事業を全て実施することができました。

また、各関連団体や他施設との連携事業においても、一般財団法人大日本蚕糸会と実行委員会が主催する全国蚕糸関係博物館横断キャンペーン「カイコを育てよう 2023」や、関東学院大学と横浜市歴史博物館との「横浜スカーフ・アーカイブの保存と活用」に関する活動などに取り組みしました。

現在、コロナ禍の影響も過ぎ去り、日常生活も落ち着きを取り戻し、シルク博物館の周辺も内外の観光客で賑わっています。入館者も個人や海外の方を中心に回復基調にあります。引き続き、より多くの方にシルク博物館にお越しいただけるよう努めてまいります。

今後とも、シルク博物館の活動にご理解とご協力をいただきますよう、宜しくお願い申し上げます。

令和 6 年 6 月 1 日
シルク博物館

2 建物の概要

【博物館】

展示面積（2 階）	798.00 m ² （241.39 坪）※受付前、ミュージアムショップを含む
（3 階）	558.03 m ² （168.80 坪）
イベントホール	212.72 m ² （64.35 坪）
第一収蔵庫	21.76 m ² （6.58 坪）
第二収蔵庫	46.24 m ² （13.99 坪）
映写室	24.48 m ² （7.41 坪）
準備室	62.62 m ² （18.94 坪）
図書室	67.80 m ² （20.51 坪）

改装 昭和 44（1969）年（開館 10 周年記念）
平成 11（1999）年（開館 40 周年記念）
平成 24（2012）年（開館 53 周年記念）

【シルクセンター】

所在地 神奈川県横浜市中区山下町 1 番地
構造 地下 2 階、地上 10 階、塔屋 3 階
建築面積 3,853.53 m²（1167.7 坪）
延床面積 25,332.02 m²（7,676.3 坪）
設計監理 坂倉準三建築研究所
施工 鹿島建設株式会社
経過 起工 昭和 32（1957）年 11 月
竣工 昭和 33（1958）年 11 月（一部）、昭和 34（1959）年 3 月 12 日（全館竣工）
開館 昭和 34（1959）年 3 月 12 日

3 令和 5 年度のおもな出来事

春の企画展 「絹を彩る鳥たち」の開催
秋の特別展 「第 27 回全国染織作品展」の開催

4 事業

(1) 展示事業

ア 常設展示

年間を通して蚕の飼育展示、繭やシルクの科学、絹製品ができる過程、衣食住にかかわる絹製品、蚕糸業の歴史、重要無形文化財保持者をはじめとした現代作家の着物、掛袢紗、アジアを中心とした民族衣装、蚕織錦絵など、シルクに関するさまざまな展示を、展示替えを行いながら展開した。日本の復元時代風俗衣装人形は、奈良時代、鎌倉時代、大正時代の着装を実施した。

また、ミュージアムショップ脇の壁面にあった綴織展示ケースを撤去し、空いたスペースは他館のポスター等の掲示場所として活用することとした。なお、上階のケース2か所にピクチャーレールを設置し、綴織を展示できるように改修した。さらに、糸繰体験装置の経年劣化が進んだため、これを更新した。

イ 春の企画展

シルク博物館所蔵品展「絹を彩る鳥たち」

人が古来、植物、動物、風景や自然現象などから生み出し用いてきた様々な模様のひとつに、鳥を表した模様がある。人々の暮らしのすぐそばにいる存在としていにしえより歌に詠まれ、絵画等にさまざまな形で描かれてきた鳥たちは、身近で親しみやすい存在として、また一方では空を自由に飛ぶことのできる神秘的な存在、あこがれの対象として、染織品においてもさまざまに表現されてきた。染織品における鳥の模様は近代まではおもに吉祥模様として表されてきたが、現代になると個々の作家の手により時に写實的に、またある時は抽象的に、自由に表現されている。

本展では、江戸時代後期の小袖や大正時代の婚礼衣装、重要無形文化財保持者による作品等を通し、さまざまな技巧をこらして表現された、色とりどりの素晴らしい鳥の世界を展示紹介した。

【会期】令和5年4月22日（土）から6月4日（日） 38日間

【主催】シルク博物館

【後援】神奈川県／横浜市文化観光局／神奈川新聞社／tvk／NHK 横浜放送局／横浜繊維振興会

【展示構成】

- ・モチーフとしての鳥たち—近世から近代まで—
江戸時代後期の小袖
（四つ身「紅紋縮緬地稲束に雀模様刺繍」、夜着「紫綸子地鶴に梅の折枝模様刺繍」ほか）
古裂、掛袢紗、細工物
近代の婚礼衣装、屏風（重要無形文化財保持者 木村雨山 二曲屏風「楽園」）
- ・形式から飛び立つ鳥たち—現代作家のきもの—
重要無形文化財保持者作品（二塚長生 変り縮緬地友禅染「夏去る」、田島比呂子 縮緬地友禅染「春潮」ほか7点）
皆川月華 綸子縮緬地染繡「陽光」、荒井照太郎 紬地友禅染「群芳」ほか

【写真】



ポスター



掛袱紗

納戸朱子地若松に三羽鶴模様刺繍 部分



会場展示風景

【入館者数】

(単位：人)

区分	正規料金			割引料金			無料※	計
	一般	シニア 大学生	高校生以下	一般	シニア 大学生	高校生以下		
日本人	546	188	367	154	73	552	1,105	2,985
外国人	64	149	4	0	1	0	25	243
計	610	337	371	154	74	552	1,130	3,228

※「無料」：招待券、優待券など無料入館者

ウ 秋の特別展

「第 27 回全国染織作品展」

絹は独特の光沢や風合い、染色性の良さなどを有し、古くから優れた高級衣料素材として用いられている。そして、古代から受け継がれてきた高度な染織技術は、日本の大切な伝統文化となっている。

本展では、絹を用いた染織作品を広く全国から募集し、厳正な審査のうえ入選した作品を一堂に展観した。本展を通じて、次代を担う新進作家の育成及び染織技術の向上と服飾文化の発展を図るとともに、絹の需要増進に寄与した。

【会期】令和 5 年 10 月 21 日（土）～ 11 月 26 日（日）（開催期間 32 日間）

【主催】シルク博物館

【協賛】一般財団法人 織貿会館／一般財団法人 大日本蚕糸会／
一般財団法人 日本真綿協会

【後援】神奈川県／横浜市にぎわいスポーツ文化局／神奈川新聞社／tvk／
NHK 横浜放送局／東京織物卸商業組合／横浜繊維振興会

【展示内容】・全国公募による入選作品 62 点
・入選作品のうち、入賞作品 10 点と特別賞 2 点

【図録】『第 27 回全国染織作品展』 A4 判 32 頁

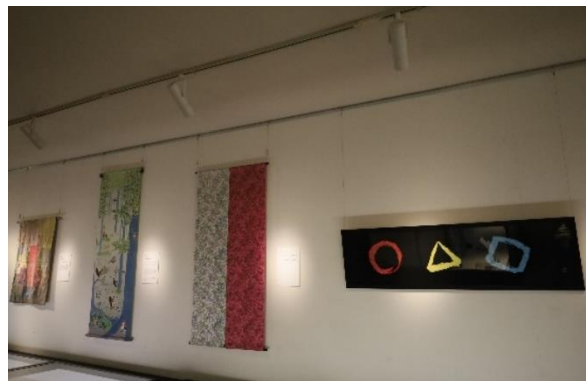
【写真】



鑑査・審査委員と入賞者



右：シルク博物館大賞「くさまんだら・其ノ九」石原清紫 作
左：シルク博物館賞「黄色の香り」遠山尚子 作



【入館者数】

(単位：人)

区分	正規料金			割引料金			無料※	計
	一般	シニア 大学生	高校生以下	一般	シニア 大学生	高校生以下		
日本人	426	266	212	181	207	560	1,026	2,878
外国人	72	93	2	22	0	200	105	494
計	498	359	214	203	207	760	1,131	3,372

※「無料」：招待券、優待券など無料入館者

(2) 教育普及事業

『チャレンジ！かいこプログラム』

これまでに引き続き、蚕種配布・かいこ教室・たのしいかいこの発表会等の事業や通年開催のワークショップ・学校利用等、当館の子ども向け教育普及事業を「チャレンジ！かいこプログラム」と総称して推進した。

ア 第1弾 蚕種配布

蚕の飼育を通してシルクに興味を持っていただくことを目的とし、横浜市内を含めた神奈川県内全域の小学校等に蚕種の有償配布を実施した。なお、指導者用資料として蚕種配布者全員に「蚕の飼育マニュアル」を配布するとともに、教員を対象とした蚕についての講座も開講した。

- 【配布日】 令和5年5月11日(木)～5月13日(土) (3日間)
 【配布件数】 165件 (うち横浜市立小学校70件、県内公立小学校12件、その他83件)
 【配布数】 蚕種：325袋 (1袋約450粒入)、人工飼料：200本
 【関連企画】

企画名	実施日	回数	講師	参加者
かいこについての講座	5/11(木)～13(土)	5回	当館職員	101人

イ 第2弾 かいこ教室

シルクを生み出す「かいこ」について、子どもたちにより一層興味・関心を持っていたくため、夏休み期間を利用して展示や体験を通して、蚕の成長過程・種類、繭や生糸の特徴等について楽しく学ぶかいこ教室を開催した。

- 【会期】 令和5年7月29日(土)～8月13日(日) (計14日間)
 【主催】 シルク博物館
 【後援】 神奈川県教育委員会／横浜市教育委員会／神奈川新聞社／
 tvk／NHK横浜放送局／一般財団法人日本真綿協会
 【展示】 めずらしいかいこの展示および人気投票、昨年度めずらしいかいこの展示の人気投票結果、まゆるんと学ぼう！「かいこ」ってどんな生き物？(蚕の生態に関する解説パネル)、みんなで作ろう！桑の木パネル
 【体験】 映画「かいこ」の上映、かいこの観察会、まゆ人形作り、生糸のランプシェード作り、まわたのスタンド作りとシルク博物館の見学ツアー
 (平日)

体験内容	参加者
映画「かいこ」の上映	221人
かいこの観察会	253人
まゆ人形作り	246人
生糸のランプシェード作り	232人

- ※各体験は1日2回、各回定員20名で開講し、1日で全ての体験に参加できるプログラムとした。
 ※「まゆ人形」「生糸のランプシェード」は有料(参加費各200円)。

(土日・祝日)

体験内容	参加者
まわたスタンド作りとシルク博物館の見学ツアー	130人

- ※1日3回、各回定員8名で開講した。

【写真】



かいこの観察会



まゆ人形作り



生糸のランプシェード作り



まわたのスタンド作り

【入館者数】

(単位：人)

区分	正規料金			割引料金			無料※	計
	一般	シニア 大学生	高校生以下	一般	シニア 大学生	高校生以下		
日本人	375	44	294	200	20	189	220	1,342
外国人	34	10	4	0	0	0	18	66
計	409	54	298	200	20	189	238	1,408

※「無料」：招待券、優待券など無料入館者

ウ 第3弾 団体利用・ワークショップ

a 団体利用

団体見学のなかでも学校利用が大きな割合を占める当館では、説明や映写、ワークシートの利用を含めた見学を通して、蚕について知識を深めるとともに、蚕が生み出す「シルク」の学習へとつながられるよう、見学内容の充実を図った。また、学校やクラスによって学習したい内容が異なるため、事前に担当教員との打ち合わせを行った。

【団体利用数】 76校 うち小学校は39校（横浜市立校31校）

【下見数】28校

b 子ども向けワークショップ

蚕や繭の特徴等について、子どもたちが楽しく学べるよう、当館オリジナルキャラクター「まゆるん」のまゆ人形作り、真綿を利用したあひる人形作り及び、生きている蚕を観察しながら学ぶかいことシルクの勉強会を開催した。

【開催日等】

企画名	実施日（各土曜日）	回数	講師	参加者
まゆ人形作り	4/8、5/6・27、6/10、8/26、9/23、10/7、11/11、1/6、3/23	10回	当館職員	29人
まわた人形「あひるの親子」作り	4/29、5/20、7/1、10/28、2/24	5回	当館職員	17人
かいことシルクの勉強会	6/3・24、9/30、11/4、1/27、3/2	6回	当館職員	46人

エ 第4弾 たのしいかいこの発表会

「チャレンジ！かいこプログラム」の集大成として、子どもたちが飼育した蚕の観察記録、繭や生糸を使った作品を募集し、蚕について学んだ成果等を発表する機会として開催した。なお、12月17日(日)には表彰式を実施した。

【会期】令和5年12月12日(火)～令和6年1月21日(日)（開催期間29日間）

【主催】シルク博物館

【後援】神奈川県教育委員会／横浜市教育委員会／神奈川新聞社／
tvk／NHK横浜放送局

【展示】出品作品の展示（出品団体数42件、制作者総数1,017名、出品数540点）、
みんなでつくろう！桑の木パネル

【関連企画】

企画名	実施日	回数	講師	参加者
生糸のランプシェード作り クリスマスバージョン	11/25(土)、 12/16(土)	2回	当館職員	8人
まゆのオーナメント作り	12/2(土)	1回	当館職員	5人
まわたの天使作り	12/9(土)	1回	当館職員	1人
たのしいかいこの発表会 表彰式	12/17(日)	1回		205人

【写真】



展示の様子



表彰式



表彰式 集合写真 第一部



表彰式 集合写真 第二部

【入館者数】 同時開催のシルキークリスマスの入館者数を含む (単位：人)

区分	正規料金			割引料金			無料※	計
	一般	シニア 大学生	高校生以下	一般	シニア 大学生	高校生以下		
日本人	253	71	4	50	80	2	1,577	2,037
外国人	29	13	3	0	0	0	63	108
計	282	84	7	50	80	2	1,640	2,145

※「無料」：期間中の小・中、招待券、優待券利用、及び無料入館日(12月17日(日))の入館者

(3) 実演・講習会

ア くみひも作り体験

鎧や刀などに使われ、現在でも帯締めや懐中時計の紐など様々な使い方がされている「くみひも」をより身近に感じていただくため、くみひもストラップ作りの体験を実施した。

【開催日等】

企画名	実施日（各土曜日）	回数	講師	参加者
くみひもストラップ作り	4/22、6/17、7/15、10/21、 12/23、1/20、3/30	7回	当館職員	28人

イ 手作り真綿の実演と講習会

真綿作りの伝統的な技術を次の世代に伝えるため、真綿に関する実演や講習会を開催した。

【後援】 一般財団法人日本真綿協会

【講習会開催日等】

企画名	実施日	回数	講師	参加者
手作り真綿の講習会	7/8(土)・9(日)	2回	河合貞子	8人
手紬糸作り講習会	10/22、11/26（各日曜日）	2回	永田順子	12人

【実演開催日等】

企画名	実施日(各土曜日)	回数	講師
手作り真綿の実演	4/15、7/22、9/23、11/18、2/17	5回	河合 貞子
真綿からの太糸作り実演	5/13、8/19、10/14、3/16	4回	河合 貞子
手紬糸作り実演	5/7、9/10、2/25	3回	永田 順子

ウ スカーフ染め体験

シルクスカーフに親しんでいただくため、シルクハンカチにビー玉やゴムを使って簡単な絞り模様をほどこし、草木染め染料による染色体験を実施した。

【開催日等】

企画名	実施日	回数	講師	参加
スカーフ染め体験 (成人向け)	9/24(日)	1回	佐藤のり子	5人
小さなシルクハンカチ染め体験 (子ども向け)	9/17(日)、9/18(月・祝)、 1/7(日)、8(月・祝)	4回	佐藤のり子	19人

(4) 講座・講演会

ア 連続講座「生糸の貿易港・横浜 ～関東大震災からの百年～」

開港以来、日本における生糸の唯一の輸出港として発展を遂げていた横浜の港は、現在から百年前に発生した関東大震災という未曾有の災害により壊滅的な状況に陥った。横浜港は一時貿易港としての機能を失い、生糸は神戸港からも輸出されるようになる。そのような状況に強い危機感を抱き、横浜港の復興と復権を目指し尽力した人々により、横浜は震災を契機に新たな港町へと作り変えられていった。

この講座では、震災から百年を経た今年度、震災前後の横浜と蚕糸業の歴史を、専門家を講師に招き全3回にわたり様々な側面から考察した。

【開催日等】

講座名	実施日	講師	参加者
「関東大震災以前の横浜と生糸貿易・蚕糸業の歴史」	1/13(土)	西川武臣 (横浜開港資料館 館長)	22人
「船と港から見た関東大震災」	2/24(土)	三木綾 (横浜みなと博物館 学芸員)	20人
「大横浜の時代 ～震災復興と生糸貿易の変容～」	3/9(土)	松本洋幸 (大正大学文学部歴史学科 准教授)	20人

※全3回すべてに出席できることを条件とし、定員40名のところ26名からの申込があった。

イ 常設展示ギャラリートーク

常設展示に沿って案内しながら、蚕や絹、染織品など多彩な話題を学芸員が来館者へわかりやすく解説した。

【開催日等】

内容	実施日	回数	講師	参加者
養蚕信仰と様々な蚕神	4/1(土)	1回	高橋典子	2人
蚕の生態について	9/16(土)	1回	佐野遊海	中止
明治・大正期の和装	2/4(土)	1回	石渡桃子	5人

(5) 夏の個人向け蚕種配布

昨年度までに続き、『チャレンジ！かいこプログラム』第1弾 蚕種配布とは別に、かいこを育ててみたい方からのご要望にお応えし、個人向けの蚕種配布を行った。

【配布日】令和5年7月21日(金)～23日(日)(3日間)

【配布件数】66件

【配布数】蚕種：71袋(1袋約20～100粒入)

(6) 博物館実習生の受入れ

学芸員養成に協力するとともに当博物館を広く周知し、絹に対する理解と関心を深めていただくため、講義と普及活動の実践(蚕の飼育も含む)による受入れを行った。実習では蚕の飼育、桑葉の収穫、展示パネル作成、夏の子ども向け企画「かいこ教室」において指導役として普及活動の実践等を行った。実習中に学んだことを来館者に自ら説明することで、絹に関わる産業、歴史、文化への興味関心を深めていただく機会とした。

【実習期間】令和5年7月26日(水)～8月15日(火)(3班に分け実施)

【受入校】女子美術大学、日本女子大学、中央大学、桜美林大学、東京都立大学、一橋大学大学院、成城大学、東洋英和女学院大学、京都芸術大学、神奈川大学 各1人、計10人

(7) 連携事業

ア 全国蚕糸関係博物館横断キャンペーン「カイコを育てよう！2023」

令和4年度から始まった、一般財団法人大日本蚕糸会が中心となり、これに各地の蚕糸関係博物館等が協力し合って実行委員会を立ち上げ、各館が開催する「かいこの飼育体験」等の催事を通じて、蚕糸業の現状を知ってもらうとともに、これからの蚕糸業を考えてもらうための取組に、今年度は新たに連動企画としてチャレンジ！かいこプログラム第2弾「かいこ教室」(令和5年7月29日(土)～8月13日(日)(14日間))を加えて実施した。

【当館対象事業】夏の個人向け蚕種配布

令和5年7月21日(金)～23日(日)(3日間)

【主催】「カイコを育てよう！2023」実行委員会／一般財団法人大日本蚕糸会

【参加施設】群馬県立日本絹の里／野外博物館 北海道開拓の村／駒ヶ根シルクミュージアム／岡谷蚕糸博物館-シルクファクトリーおかや-／西予市野村シルク博物館／ジャパンシルクセンター／シルク博物館

【後援】蚕糸・絹業提携グループ全国連絡協議会／全国シルクビジネス協議会

イ シルキークリスマス

多くの方々にシルク博物館に来ていただき、楽しくシルクへの理解と関心を深めていただくことを目的として、12月17日（日）を「シルキークリスマス」としてクリスマスイベントを実施した。当日は入館無料とし、午前中、「たのしいかいこの発表会」表彰式を開催し、午後は関東学院大学の学生によるスカーフファッションショー映像の上映、横浜市民広間演奏会によるクリスマスコンサート（クラシック・ヨコハマ 2023）を実施して賑わった。また、シルクミュージアムショップの協力により、シルクフェア（スカーフやネクタイ等のワゴン販売）も実施した。

【日時】令和5年12月17日（日）

【主催】シルク博物館

【協力】関東学院大学／横浜市歴史博物館／クラシック・ヨコハマ 2023 横浜市民広間演奏会／横浜シルクミュージアムショップアソシエーション

【入館者】（無料入館日）総入館者数 415 人

プログラム名	出演者等	観覧者
シルクスカーフを用いたファッションショーの上映（リピート上映、自由観覧）	関東学院大学	—
クラシック・ヨコハマ 2023 ミュージアムコンサート（事前予約制）	横浜市民広間演奏会	61 人

【写真】



コンサート



ファッションショー上映風景

ウ 横浜輸出スカーフ展示

「横浜スカーフ物語。その歴史を継いだ立役者たち」

令和4年度からシルク博物館と横浜市歴史博物館、関東学院大学の三者で「横浜スカーフ・アーカイブの保存と活用に関する覚書」を締結し、連携事業を実施している。その一環としてシルク博物館において横浜輸出スカーフの小規模な企画展示を開催した。

【実施日】令和5年12月2日（土）～令和6年1月21日（日）

【主催】シルク博物館

【共催】横浜市歴史博物館 関東学院大学

【企画・監修】 KGU 横浜スカーフ研究プロジェクト（代表：山崎稔恵）

【写真】



横浜スカーフ展示風景



(8) 資料活用事業

ア 購入 2件 2点

資 料 名
染訪問着「くさまんだら・其ノ九」（「第27回全国染織作品展」シルク博物館大賞作品）
染訪問着「黄色の香り」（「第27回全国染織作品展」シルク博物館賞作品）

イ 寄贈 4件 4点

資 料 名	点数	寄 贈 者
小国蚕糸興業株式会社旧蔵「掛軸」	1 幅	佐藤康德
綾竹台（制作途中の鎌倉組）	1 件	道明三保子氏 市来 義子氏
ネクタイ（平野利太郎作）、参考資料	1 件	永山 寿一氏
横浜開港百年祭提灯	1 点	黒岩 幸一氏

ウ 貸出 1件 8点

資 料 名	点数	事業名	貸出先	開催期間
錦絵「蚕繁栄之図」（国安）ほか	8 点	展覧会「浮世絵美人と馬」	馬の博物館	4/22～6/11

エ 特別利用 12件 28点

資 料 名	点数	特別利用内容／掲載誌等	利用者	掲載日等
「アナフェの繭と家蚕繭」写真	1 点	図版掲載	小泉勝夫	8/5
『皇国養蚕図会』より「繭糸外国輸出の図」他	3 点	BS 日テレ番組「週末極楽旅」にて放送	(株)アール	10/2
『横浜開港見聞誌』より「本町5丁目石川生糸店の図」	1 点	番組内にて使用	(株)K R Y	11/2

「シルク博物館常設展示風景」	一式	鎌倉女子大学文化祭「みどり祭」にて展示利用	鎌倉女子大学 (稲川ゼミ)	11/3
『古代裂縞百種』	1 件	北九州市立いのちのたび博物館 小倉織科研での綿織物研究のため 熟覧、撮影	林久美子	1/25
「大日本蚕糸会報 375 号口絵写真」他	2 点	茅ヶ崎純水館研究会研究集録 2024 に掲載	茅ヶ崎純水館研究会	2/29
スカーフ製造工程写真	4 点	「ヨコハマの輸出工芸展」にてパネル展示	横浜市歴史博物館	2/3～ 3/10
錦絵「蚕繁栄之図」(国安)	1 点	図版掲載	ファミリーマガジン	2/5
生糸商標	5 点	図版利用 前橋市の企業ミュージアム常設展示	乃村工藝社	2/20
生糸商標	2 点	シルクロード・ネットワーク横浜フォーラム 2023 にて図版利用	矢島宏雄	3/17
「たのしいかいこの発表会」紹介写真等	一式	図版利用	横浜市立榎が丘小学校	3/20
『養蚕秘録』他	6 点	日本真綿協会『真綿と日本人(仮)』に掲載	P to P 合同会社	令和 6 年春(予定)

オ 収蔵品の修復

当館所蔵の蚕織錦絵のうち 11 作品の欠損部分補修、裏打ちなどを実施した。

(9) 刊行物

- ・特別展図録『第 27 回全国染織作品展』A4 32 頁 令和 5 年 10 月発行
- ・「2023.10－2024.3 催しものご案内」A3 四つ折り 令和 5 年 9 月発行
- ・「2024.4－9 催しものご案内」A3 四つ折り変形 令和 6 年 3 月発行
- ・『まゆるんの豆知識』改訂版 A5 36 頁 令和 6 年 3 月発行

(10) 研修・視察

内 容	研修・視察先	日付	氏名
横浜スカーフ捺染作業の視察	横浜市旭区 丸鈴産業	6/2(金)	前田恵美子 佐野遊海 石渡桃子
第 18 回無形民俗文化財研究協議会 「民具を継承する」	東京文化財研究所	12/8(金)	高橋典子

神奈川県博物館協会 令和5年度第4回研修会 「博物館におけるデジタルアーカイブズの理論と実践」	小田原市生涯学習センター けやき 2階 大会議室	12/14(木)	佐野遊海 石渡桃子
令和5年度文化財（美工品）保存修理講習会	(アーカイブ配信)	12/19(火)	石鍋由美子 石渡桃子
根津美術館「縫と織」展視察	根津美術館	1/11(木)	佐野遊海 石渡桃子

(11) レファレンス

蚕を飼育する学校、個人からの問い合わせのほかに報道機関からのシルクに関する問い合わせなどが多数あった。

分 類	主 な 内 容
蚕の飼育に関して	飼育方法（ふ化から繭作りまでの各過程）
	繭の活用方法（糸くり、繭人形、染色、真綿作り）
	蚕の入手方法
	人工飼料の入手方法
	エサ（桑葉）の確保
蚕糸業に関して	絹の道
	養蚕農家
	横浜商人について

(12) 後援・協力

ア 後援等

後援内容	事 業 名	主 催	期 間	事業内容
後援名義使用	2023年「横浜ファッションウィーク」	横浜ファッションウィーク実行委員会	4/28(金)～5/7(日)	横浜市内のファッション産業の振興、生活文化産業の発展を目指し、横浜の代表的な地場産業である「横浜スカーフ」の振興産業として実施
	シルクサミット 2023in 横浜	(国研) 農業・食品産業技術総合研究機構、(一財) 大日本蚕糸会、横濱コクーン・スクウェア／シルクサミット	10/6(金)・7(土)	横浜と絹のつながりを歴史・文化・教育など多方面からアプローチし、絹文化の啓蒙や伝統の継承および絹関連商品を展開することにより、横浜及び絹産業の活性化に資することを目的とした横濱コクーン・スクウェア実行委員会と、今年度は(一財) 大日本蚕糸会等が主催する『シルクサミット 2023in 横浜』とが共催し開催
	第2回横濱コクーン・スクウェア	2023in 横浜実行委員会ほか		

イ 他機関への協力

協力内容	事業名	主催	期間	備考
スタンプスポットとして登録協力し、館内にQRコードを設置	《花咲く Rally》花咲く横浜をめぐるデジタルスタンプラリー	関内・関外地区活性化協議会	3/19(日)～6/11(日)	スタンプ取得者 29 人 ※同期間中の入館者数：4, 666 人
広告掲載紙及びチラシによるクーポン券の配布	2023 年横浜ファッションウィーク	横浜ファッションウィーク実行委員会	4/28(金)～5/7(日)の10 日間	クーポン券 1 枚持参につき、大人 2 名まで入館無料
『ハマフェスパスポート』を提示された入館者先着 100 名様に絵葉書をプレゼント	ハマフェス Y164『ハマフェスパスポート』企画	ハマフェス実行委員会	5/8(月)～6/30(金)	入館記念絵葉書を 22 人にプレゼント ※同期間中の入館者数：3, 621 人
常設展用招待券 (50 枚) の提供	シルクサミット 2023in 横浜	(国研) 農業・食品産業技術総合研究機構、(一財) 大日本蚕糸会、横浜コクーン・スクウェア/シルクサミット 2023in 横浜 実行委員会ほか	10/6(金)・7(土)	※その他 ○9/14 (金) 実行委員会打合せの為に会議室提供 ○名誉館長マリ クリスマスが開催地を代表して歓迎の挨拶
招待券 (10 枚 10 名分) の提供	第 49 回筑波大学学園祭「雙峰祭」	筑波大学学園祭実行委員会	11/4(土)・5(日)	来場者：30,000 人
招待券 (10 枚 10 名分) の提供	フェリスフェスティバル 2023	フェリス女学院大学大学祭実行委員会	11/3(金)・4(土)	来場者：4,823 人
シルクセンター正面入口脇のホールにおいて展示会開催に協力	機能調査検討会「有機繭を使用した試作品の商品性評価 (展示会の実施)」	全国シルクビジネス協議会	1/30(木)	
「横浜春節クーポン」を提示した者に対して団体割引料金を適用	横浜春節祭 2024	横浜中華街発展会協同組合	2/1(木)～3/31(日)	
メインエントランス横のアンケート記載机付近においてパネル展示及びアンケート調査	機能調査検討会「シルクの機能調査結果の展示及びアンケート調査」	全国シルクビジネス協議会	2/16 (金)～25 (日)	開館日数：8 日間 回収アンケート：26 枚
チラシによるクーポン券の配布	かながわシルクフェア	かながわシルクフェア実行委員会	3/12(火)～19(火)の8 日間	クーポン券 1 枚持参につき、大人 2 名まで入館無料

(13) 職員の派遣

協力内容	事業名	主催	期間	備考
川崎市立日本民家園 専門部会へ委員として 高橋副館長を派遣	川崎市社会教育委員会 日本民家園専門部会	川崎市立日本 民家園	5/28(日)、 12/10(土)、 3/24(日)	
横浜市教育委員会へ 文化財審議員として 高橋副館長を派遣	横浜市文化財審議会	横浜市教育委 員会	7/21(金)、 11/8(水)、 2/6(火)	
江東区教育委員会へ 文化財審議員として 高橋副館長を派遣	江東区文化財審議会	江東区教育委 員会	5/25(木)、 7/24(月)、 9/7(木)、 2/8(木)	
川崎市民アカデミー 講師として高橋副館 長を派遣	講座「川崎学」	NPO 法人かわ さき市民アカ デミー	7/5(水)、 1/17(水)	
小田原市郷土文化館 協議会委員として高 橋副館長を派遣	小田原市郷土文化館協議会	小田原市教育 委員会小田原 市郷土文化館	11/25(金)	
シルクサミット 2023 へ活動事例報告のため 佐野学芸員を派遣	横濱コクーン・スクウェア/ シルクサミット 2023 in 横 浜	(国研) 農 業・食品産業 技術総合研究 機構、(一 財) 大日本蚕 糸会、横濱コ クーン・スク ウェア／シル クサミット 2023in 横浜実 行委員会ほか	10/6(金)	
シルクロード・ネッ トワーク横浜フォー ラム 2023 へパネリス トとして高橋副館長 を派遣	シルクロード・ネットワーク 横浜フォーラム 2023	シルクロー ド・ネットワ ーク協議会	3/16(土) 17(日)	

(14) 広報

当館の特別展や基本情報等について、各種媒体に働きかけた。今年度、掲載された先は次のとおり。公式 X (旧ツイッター) は 4 日に 1 回のペースで更新中。

ア 春の企画展 シルク博物館所蔵品展 「絹を彩る鳥たち」

区分	媒体名	名称
新聞	神奈川新聞(5月22日)	(記者来館)
新聞	東京新聞(5月29日)	地域の情報
業界紙	染織新報(4月26日)	
情報紙	横浜画廊散歩(4・5月号)	
機関誌	博物館研究(4月号)	
機関誌	商工季報(春号)	
機関誌	シルクレポート(4月号)	

機関誌	シルクレポート(7月号)	開催報告
タブロイド紙	定年時代(5月8日)横浜川崎版	
Web	婦人画報デジタル(4月19日)	
Web	ヨコハマアートナビ	

イ 秋の特別展 「第27回全国染織作品展」

区分	媒体名	名称
新聞	神奈川新聞(11月20日)	(記者来館)
新聞	東京新聞(10月23日)	
業界紙	染織新報(10月16日)	
情報紙	横浜画廊散歩(10・11月号)	
情報紙	江ノ電沿線新聞(11月1日)	
タブロイド紙	定年時代(11月6日)横浜川崎版	
情報誌	タウンニュース中区・西区版(11月9日)	(記者来館)
機関誌	商工季報(秋号)	
機関誌	シルクレポート(10月号)	
機関誌	シルクレポート(1月号)	開催報告
Web	きものタイムズ	
Web	ヨコハマアートナビ	

ウ チャレンジ! かいこプログラム

(ア) 「かいこ教室」

区分	媒体名	名称
新聞	東京新聞(7月21日)	
新聞	神奈川新聞(8月3日)	
機関誌	シルクレポート(7月号)	
機関誌	シルクレポート(10月号)	開催報告

(イ) 「たのしいかいこの発表会」

区分	媒体名	名称
新聞	東京新聞(12月18日)	
ラジオ	ニッポン放送「ハローかながわ」	
機関誌	シルクレポート(10月号)	
機関誌	シルクレポート(R6.4月号) 開催報告	
Web	いこーよ	
Web	ヨコハマアートナビ	

エ 講座 「生糸の貿易港・横浜～関東大震災からの百年～」

区分	媒体名	名称
新聞	東京新聞(12月25日)	
タブロイド紙	定年時代(1月9日)横浜川崎版	

オ ワークショップ、実演

区分	媒 体 名	名 称
機関誌	博物館研究 4 月～3 月号	

カ 常設展、基本情報

区分	媒 体 名	名 称
新聞	毎日新聞（9 月 15 日）	館情報
テレビ	BS フジ	「梶原善のビルぶら！」
テレビ	ベトナム国営テレビ	「世界ニュース」
情報誌	横浜市	暮らしのガイド
情報誌	（合同）あるつく社	「鎌倉・横浜散歩 2024」
機関誌	Agli 横浜 11 月号（横浜農業協同組合）	館情報
Web	Youtube 番組「動物作家篠原かをりチャンネル」	館情報
Web	観光かながわNOW（神奈川県観光協会）	館情報
Web	るるぶK i d s	館情報
Web	いこーよ	館情報
Web	大空出版「J A P A N V i e w」	館情報
Web	NAV I T I M E	館情報
Web	インフォメーションテクノロジー関西	館情報
Web	ヨコハマ・ギャラリー・マップ	館情報
業界誌	生活の友社「美術界データブック」	館情報
	美術年鑑社「美術年鑑」	館情報

キ その他

区分	媒 体 名	名 称
業界紙	繊維ニュース（5 月 2 日）	ファッションウィーク
業界紙	繊維ニュース（8 月 28 日）	復刻スカーフ追加生産
情報誌	タウンニュース中区・西区版(9 月 28 日)	シルクサミット
雑誌	ギンザ 1 月号	※写真撮影
新聞	東京新聞（1 月 8 日）	横浜輸出スカーフ展示

(15) その他

ア オリジナル商品の開発

オリジナル商品であるスカーフを追加生産した。プチサイズのシフォンスカーフ「復刻スカーフ」と、大判で60 匁・手巻き仕上げの「桑スカーフ」はチェリーピンクとロイヤルブルーの2色を新たに展開した。



復刻スカーフ



桑スカーフ(チェリーピンク)



桑スカーフ(ロイヤルブルー)

5 資料

(1) 組織と職員

【組織図】

一般財団法人シルクセンター国際貿易観光会館

専務理事 — 事務局長

↓

(シルク博物館)

博物館部次長(館長)(1) — 学芸担当課長(副館長)(1) 学芸課長(1)

主査(1) 学芸員(2)

臨時職員(4) ※()内は人員数

【委嘱者氏名】 名誉館長

マリ クリスティーン

【職員氏名】 館長

慶徳 俊哉

副館長/学芸員

高橋 典子

学芸課長/学芸員

石鍋 由美子

主査

前田 恵美子

学芸員

佐野 遊海

学芸員(非常勤職員)

石渡 桃子

(2) 事業費

(単位：円)

費 目	内 容	支 出
博物館事業費		9,586,478
(内訳)		
普及事業費	常設展示・特別展開催費等	7,573,311
資料整備費	資料補修費・図書資料等収集費等	548,800
広報事業費	広告掲載費・広告資料作成費等	1,010,675
運営管理費	運営委員会開催費・損害保険料	453,692

(3) 所蔵資料

(単位：点)

資 料 名	前年度末の累計 収集・寄贈	令和5年度		本年度末の累計
		購入	寄贈	
資 料	6,935	0	4	6,939
写真・ビデオなど	610	0	0	610
図 書	6,694	6	67	6,767
計	14,239	6	71	14,316

(4) 入館者状況

(単位：人)

区 分	個 人			割引料金			無料	合 計
	一般	シニア・大	高校生以下	一般	シニア・大	高校生以下		
4 月 【 22 日】	289 (43)	199 (125)	104 (1)	131 (56)	27 (0)	37 (3)	435 (10)	1,222 (238)
5 月 【 26 日】	407 (41)	179 (36)	251 (1)	89 (0)	55 (1)	507 (0)	880 (13)	2,368 (92)
6 月 【 22 日】	282 (35)	89 (11)	228 (0)	108 (1)	32 (0)	667 (0)	356 (14)	1,762 (70)
7 月 【 26 日】	364 (55)	82 (13)	121 (7)	157 (58)	29 (0)	118 (0)	489 (12)	1,360 (145)
8 月 【 25 日】	583 (62)	91 (16)	351 (7)	227 (0)	23 (0)	211 (0)	435 (21)	1,921 (106)
9 月 【 24 日】	230 (43)	99 (36)	142 (0)	76 (0)	122 (0)	466 (0)	362 (11)	1,497 (90)
10 月 【 22 日】	254 (60)	176 (98)	98 (2)	114 (47)	51 (0)	66 (0)	485 (37)	1,244 (244)
11 月 【 23 日】	379 (43)	281 (58)	139 (0)	158 (0)	167 (0)	759 (200)	855 (81)	2,768 (382)
12 月 【 21 日】	183 (29)	97 (12)	16 (1)	58 (0)	43 (0)	3 (0)	1,256 (63)	1,656 (105)
1 月 【 23 日】	235 (16)	61 (10)	104 (5)	58 (2)	46 (0)	337 (0)	714 (7)	1,555 (40)
2 月 【 24 日】	272 (40)	93 (33)	157 (2)	67 (7)	100 (1)	326 (9)	345 (12)	1,360 (104)
3 月 【27 日】	321 (71)	123 (61)	92 (8)	316 (2)	47 (2)	132 (0)	468 (38)	1,499 (182)
計 【 285 日】	3,799 (538)	1,570 (509)	1,803 (43)	1,559 (173)	742 (4)	3,629 (212)	7,110 (319)	20,212 (1,798)

【 】：開館日数、()：外国人の人数を内書き

「割引料金」：各種割引による入館者

「無料」：招待券、優待券等による無料入館者

(5) 過去の特別展・企画展一覧

年 度	特 別 展 等
1959(昭和 34)	シルクセンター竣工記念全国輸出振興展 特別展『蚕織錦絵展』
1960(昭和 35)	特別展『近世日本衣装名品展』
1961(昭和 36)	特別展『近代染織名作展』
1962(昭和 37)	特別展『日本伝統染織工芸展』
1964(昭和 39)	特別展『オリンピック東京大会記念シルクフェア』
1965(昭和 40)	特別展『能装束展』
1966(昭和 41)	「第 8 回米国貿易見本市出品絹製品展示会」 特別展『伝統染織作品と紅染資料展』
1967(昭和 42)	特別展『紋と繡の美展』
1968(昭和 43)	特別展 開館 10 周年記念『シルク博物館所蔵品展』
1969(昭和 44)	特別展『江戸時代能装束展』
1970(昭和 45)	特別展『花のきものと髪かざり展』 特別展『第 1 回シルク博物館染織作品展』
1971(昭和 46)	特別展『第 2 回シルク博物館染織作品展』
1972(昭和 47)	特別展『第 3 回シルク博物館染織作品展』
1973(昭和 48)	特別展『第 4 回シルク博物館染織作品展』
1974(昭和 49)	特別展『第 5 回シルク博物館染織作品展』
1976(昭和 51)	特別展『ヨコハマのスカーフ展』
1977(昭和 52)	特別展『世界の民族衣装展』
1978(昭和 53)	特別展『人間国宝による「絹の伝統染織名作展」』
1979(昭和 54)	特別展『横浜絹の祭典と染織新作展』
1980(昭和 55)	特別展『思い出のきもの展』
1981(昭和 56)	特別展『草木染展と染織新作展』
1982(昭和 57)	特別展『洋装のあゆみとニューファッション展』
1983(昭和 58)	特別展『ふるさとの絹展と第 8 回染織作品展』 企画展『母と子の「かいこの自然科学教室」』
1984(昭和 59)	特別展『花嫁衣装展』 特別展『江戸期から現代までの「江戸小紋展」』 企画展『母と子の「かいこの自然科学教室」』 特別展『郷土かながわの染織作品展』
1985(昭和 60)	特別展『日本人形の細工物展』 企画展『母と子の「かいこの自然科学教室」』 特別展『フランス絹織物栄光とその先達「リヨン織物美術館秘蔵品展」』
1986(昭和 61)	特別展『ヨコハマのスカーフ展』 企画展『親と子の「かいこの自然科学教室」』 特別展『関東の絹展と第 9 回染織作品展』
1987(昭和 62)	特別展『レースの美展』 企画展『親と子の「かいこの自然科学教室」』 特別展『ファッションデザイナーによる'87 ニューウェーブきもの展』
1988(昭和 63)	特別展『ふろしきの今昔展』 企画展『親と子の「かいこの自然科学教室」』 特別展『'88 ニューシルク展と第 10 回染織作品展』
1989(平成元)	特別展『シルク博物館所蔵名品展』 企画展『親と子の「かいこの自然科学教室」』 特別展『華麗なる絹の世界へ「絹の文化展」～江戸と現代～』
1990(平成 2)	特別展『「日本の紬展」～紬のふる里を訪ねて～』

1990(平成 2)	企画展『親と子の「かいこの自然科学教室」』
	特別展『シルクまつり'90 と第 11 回染織作品展』
1991(平成 3)	特別展『館蔵「蚕織錦絵展」～錦絵にみる時代風俗と衣装～』
	企画展『親と子の「かいこの自然科学教室」』
	特別展『～桂由美コレクション～「世界の民族花嫁衣装展」』
1992(平成 4)	特別展『館蔵「染織名品展」』
	企画展『親と子の「かいこの自然科学教室」』
	特別展『シルクフェア'92 と第 12 回染織作品展』
1993(平成 5)	特別展『館蔵「江戸小袖展」』
	企画展『親と子の「かいこの自然科学教室」』
	特別展『「絹と化粧まわし展」～戦後横綱の化粧まわしによる～』
1994(平成 6)	特別展『館蔵「江戸古裂展」』
	企画展『親と子の「かいこの自然科学教室」』
	特別展『シルクフェスタ'94 と第 13 回染織作品展』
1995(平成 7)	特別展『～繡の美～「甞る足柄刺繡展」』
	企画展『親と子の「かいこの自然科学教室」』
	特別展『「思い出のきもの展」－PART II－ ～昭和・平成の衣裳作品から～』
1996(平成 8)	特別展『～日本人の贈りもの～「掛袱紗展」』
	企画展『親と子の「かいこの自然科学教室」』
	特別展『シルクフェア'96 と第 14 回染織作品展』
1997(平成 9)	特別展『アヅマカブキの舞踊衣装展』
	企画展『親と子の「かいこの自然科学教室」』
	特別展『～手織りの芸術美～「ラオスの伝統織物展」』
1998(平成 10)	特別展『カイクの道具展とシルクフェア'98』
	企画展『親と子の「かいこの自然科学教室」』
	特別展『第 15 回染織作品展と秋のシルクフェア』
1999(平成 11)	特別展『文化の伝承－江戸から現代へ「華麗なる能装束の美」展』
	企画展『親と子の「かいこの自然科学教室」』
	特別展『染めの美織りの美 ～人間国宝作家作品を中心として～』
2000(平成 12)	特別展『沖縄の伝統染織展』
	企画展『親と子の「かいこの自然科学教室」』
	特別展『第 16 回全国染織作品展』
2001(平成 13)	特別展『人生をかけた荒井照太郎の手描友禅その美』
	企画展『「熊田千佳穂の昆虫記録展」と親と子の「かいこの自然科学教室」』
	特別展『ブータンの民族衣装とシルクフェア』
2002(平成 14)	特別展『中村光哉友禅染色の詩展』
	企画展『親と子の「かいこの自然科学教室」』
	特別展『第 17 回全国染織作品展とシルクフェア』
2003(平成 15)	特別展『糸目友禅の巧み「人間国宝 山田貢展」』
	企画展『親と子の「かいこの自然科学教室」』
	特別展『市田ひろみコレクション「世界の民族衣装展」』
2004(平成 16)	特別展『自然をいつくしむ手描友禅「人間国宝 田島比呂子展」』
	企画展『親と子の「歌舞伎人形とかいこの自然科学教室」』
	特別展『第 18 回全国染織作品展』
2005(平成 17)	特別展『世界のふろしき展』
	企画展『親と子の「かいこの自然科学教室」』
	特別展『今に伝えるつむぎの魅力』
2006(平成 18)	特別展『「人間国宝 細見華岳展」－綴織に心を込めて－』
	企画展『親と子の「かいこの自然科学教室」』

2006(平成 18)	特別展『第 19 回全国染織作品展』
2007(平成 19)	特別展『インド サリーの世界』
	企画展『親と子の「かいこの自然科学教室」』
	特別展『旧山辺知行コレクション「インドの染織展」』
2008(平成 20)	特別展『アロハ・デザイン展』
	特別展『ラオス女性が伝える手織りの世界』
	企画展『親と子の「かいこの自然科学教室」』
	特別展『第 20 回全国染織作品展』
2009(平成 21)	特別展『佐賀錦のみやびな世界「人間国宝 古賀フミ展」』
	特別展『開館 50 周年記念「ヨコハマ開港とシルク展」』
	企画展『親と子の「かいこの自然科学教室」』
	特別展『鈴木一コレクション「古渡り更紗と名物裂展」』
2010(平成 22)	特別展『ペルシャシルク絨毯の世界』
	特別展『華麗なる能装束「稔りの季」』
	企画展『親と子の「かいこの自然科学教室」』
	特別展『第 21 回全国染織作品展』
2011(平成 23)	特別展『「三浦景生展」ーヨコハマ染陶暦程ー』
	企画展『親と子の「かいこの自然科学教室」』
	特別展『ー平山郁夫シルクロード美術館コレクションー 「豊饒なる色彩ーウズベキスタンの布と器」
2012(平成 24)	特別展『「美しい日本の絹」ユミ カツラブライダルコレクション』
	企画展『親と子の「かいこの自然科学教室」』
2013(平成 25)	特別展『群馬県立日本絹の里との提携記念 「夢を紡いだシルク」ー「蚕の国」群馬と「シルクの街」ヨコハマー』
	企画展『親と子の「かいこの自然科学教室」』
	特別展『ー美しい日本の絹ー「友禅」』
2014(平成 26)	企画展『世界に羽ばたいたスカーフたち』
	企画『親と子のかいこの自然科学教室』
	特別展『第 23 回全国染織作品展』
2015(平成 27)	企画『親と子のかいこの自然科学教室』
	特別展『今に生きる 江戸小紋 ～小宮家四代の作品を中心に～』
2016(平成 28)	企画展『キモノの美ー人間国宝田島比呂子の友禅ー』
	特別展『第 24 回全国染織作品展』
2017(平成 29)	企画展『ふくらむ はずむ まじわる シルクの輝きを知る～織りの美～』
	特別展『横浜・生糸ものがたりⅠ “かいこ” と暮らすーかながわ養蚕録ー』
2018(平成 30)	企画展『江戸の粋とデザインー小袖コレクションから』
	特別展『第 25 回全国染織作品展』
2019(平成 31・令和元)	企画展 開館 60 周年記念所蔵名品展 「シルクのシンフォニー ～染と刺繍のかがやき～」
	特別展 開館 60 周年記念 横浜・生糸ものがたりⅡ 「白き糸の調べーかながわの製糸・燃糸ー」
2020(令和 2)	(新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止)
2021(令和 3)	企画展『描かれた養蚕 ―蚕織錦絵の世界―』
	特別展『第 26 回全国染織作品展』
2022(令和 4)	企画展『紬のきもの』
	特別展 『「横浜・生糸」ものがたりⅢ 横浜から世界へ ―海を渡った生糸―』
2023(令和 5)	企画展『絹を彩る鳥たち』
	特別展『第 27 回全国染織作品展』

シルク博物館令和5年度年報

令和6年6月1日
編集・発行 シルク博物館

〒231-0023
神奈川県横浜市中区山下町 1 番地
TEL045-641-0841